

【令和7年度に寄せられた感想より抜粋】

◆被爆体験講話者（被爆者ご本人）

【中学校】

たくさんの方が大きな傷を負い、長崎から歩いてくる様子は、考えるだけでも苦しいし、そんなことが現実にあったことがすごく怖く感じました。これから二度と戦争をしないために、今回のお話で学んだことをいろいろな人に発信していきたいと思います。

【高校】

話を聞いて、被爆者が今もどのような病気で苦しんでいるのかや、現地の当時の被害状況や歴史など過去を学ぶ意味についても分かりました。今は高校生なので大学に行った時に歴史を学び、平和について考え、伝えていけるようにしたいと思います。

【自治体】

原爆投下までの苦しい生活と、原爆投下後「日常」の象徴である学校の体育館で目にした地獄の光景や様子、グラウンドでごみのように燃やされていく人の様子など、痛々しい情景が想像できる内容でした。講話を聴講した生徒たちからは、今の生活が当たり前でないことを痛感し、1日1日を大切に過ごしていきたいといった声が聞かれました。

【一般】

原爆を直接体験した方の話は、何にも変えられない力がある。多くの方に聞いてほしいものです。平和のバトンをつないでいきたい。

初めて長崎の被爆者の方からお話を伺いました。やはり直接お話を伺うとぜんぜん違います。何もわかっていなかったように思います。ありがとうございました。

最悪の戦争犯罪だということ、何か一つでも考えて、行動するということ（自分が）大事にしていきたいと思います。このような機会を与えて下さり感謝しています。

◆家族証言者

【中学校】

私が知っている原爆や戦争のことはほんの一部であることがわかりました。いちばん印象に残ったのは原爆で亡くなってしまった自分の兄弟を焼いていた子どもがいたという話です。もし自分がこの子どもの立場だったら、絶対に自分の兄弟を焼けないなと思いました。兄弟を失っただけでも悲しいのに、自分で焼いてしまうのはもっと悲しいし、つらいことだと思います。たった1つの原爆で大切な人やくらしがなくなってしまうことは絶対にあってはならないことだと思います。原爆は人の体を傷つけるだけではなく、心も傷つけてしまうものだとわかりました。大切な人やくらしをもう二度となくさないためにも戦争はしてはいけないと思いました。また、今私が平和にくらしていることはすごく幸せで大切な時間であると改めて気づきました。

話を聞いて家族の大切さとか戦争の悲惨さが伝わりました。原子爆弾や戦争が奪ったのは命だけではないなと思いました。家族や建物、大切なものやいろいろな人の将来を奪っているなと思いました。本来ならきちんと教育を受け、社会に出て家族と幸せに過ごせるはずでした。しかし、戦争になって何もかも奪われて、私が今過ごしている生活が普通でないといけなのに、それが普通でなかった時代だと考えるとゾッとします。戦争によって命を失ってしまった人もとてもつらいと思うけど、生き残った人もすごくつらいのではないかなと思いました。家族や友人はもういないが、自分は生き残った。私なら残りたくないです、今までの生活が一瞬でなくなり、今から自分一人で生きていかなければいけないという状況になった時、家族や友人を失った悲しみと助けられなかった罪悪感、これからの不安、いろんな感情がある中でそれでも生きていかなければいけない、誰かに伝えないといけない、とても悲しくてつらいことだなと思いました。

【自治体】

自分が歴史を学んで想像した話より何倍も残酷だった。原爆の影響はその一瞬や数日だけでなく、数十年先まで続いていくのが恐ろしいし、絶対に使ってはいけなかった武器だと思った。自分がもし家族を一瞬で失ってしまったらと聞かれて考えてみたけど、想像もできないくらいに嫌だし悲しくてたまらないと思ったが、常にいつ家族を失うかわからない状況になってしまう戦争はしてはいけないと感じた。今ある平和を守って。これから二度と戦争が起こらないようにしたい。

今回の被爆体験を聞いて最初はテレビでやっているようなことかなと思っていましたが、話をよく聞くと一つ一つの家族が大変で悲しく、後遺症や病気になったりして辛かったと思います。原爆のことを簡単に受け流さないように核兵器の怖さを頭に入れて二度と戦争をしないように受け継いでいきたいと思います。

80年前の出来事だから自分たちには関係ないと思わず、ちゃんと受け止め二度と核被害国がでないよう考えなければならぬと思いました。

◆交流証言者

【中学校】

交流証言者になろうと思ったきっかけやこれまでに取り組んだ平和活動などにも触れてくださいました。生徒は年齢の近い方の姿として自分の高校や大学での生活に思いを巡らせながら、関心を持って聞いていました。大変ありがたかったです。加えて、交流証言者による講演を初めて聞いた教員もおり、「勉強になった」との声を聴きました。今回の講演は教員側の平和学習に関する研修としての効果もあったと思います。その後実施した平和に関するフィールドワークでは、資料を今回の講演と繋げながら理解しようとする生徒も多く見られました。

【中学・高校】

戦争教育を受けていない地域の生徒からすれば、想像していなかった話であり、戦争の悲惨さを身に染みて感じることができました。

事実を伝えるためにゆっくりと、感情を入れすぎず話をされて、こちらが感情的になりそうな話でも聞き入ることができました。最後に、「平和とは何か」という問いを投げかけていただき、生徒たちもそれぞれが深く考えることができました。

交流証言者が語り部になるまでの考え方、行動力にも大きく感銘を受けました。このような、若い世代が遠くない悲惨な出来事を風化させない活動が続いていくことも必要であると再認識しました。

教科書や報道等で「聞いたことがある」という出来事を交流証言者の方から聞いたことで、犠牲になられた方一人一人にエピソードがあることに気づかされました。

【高校】

原爆の凄まじさ、悲惨さが交流証言者の語りそして資料からよく伝わった。一瞬で奪われた尊い命を目前に、どうすることもできない悲しさや怒り、理不尽さを感じ、生徒の中には涙を流している生徒もいた。「ナガサキを最後の被爆地に」するために、そして被爆者の声を次世代に引き継いでいき、平和な世界を作るために、一人ひとりが学び続けることの大切さを感じることができた。

生徒の感想から、修学旅行で長崎の原爆資料館を訪れた経験のある生徒が多くいたが、今回のような交流証言者の話を聞いたのは初めてという生徒がほとんどであった。改めて平和について考える大切な機会となったようである。また、今後を生きる世代の使命として、微力であっても平和の大切さを語り継いでいきたい、との意見があり、生徒にとって、そして我々教職員にとっても大変意義深い講話であったと感じる。

◆被爆体験記朗読ボランティア

【小学校】

聴講者である児童と年の近い子どもの体験記であったことから、児童は自分に引き寄せて感じたり受け止めたりすることができました。絵本の内容も子どもの視点で描かれていたため、児童は想像し、共感しながら聞くことができました。会の初めは緊張していた児童が、穏やかかつ、しっかりと心まで伝わる朗読にあっという間に引き込まれ、集中して聞いていました。大変よかったです。本校にもあるくすのきと被爆くすのきの話から、つながりを見いだしていただき、児童も朗読者の方々と心が近づいたようでした。今回、初めて朗読者の方を派遣していただきましたが、児童にとって学びが多く、戦争と平和について考えるよい機会になりました。

【中学校】

長崎の場所や名物など親しみやすい話題から始まり、原爆についてもわかりやすい説明で中学生にも聞きやすい内容であったことが生徒の反応からわかりました。写真をスクリーンに映しながら説明していただいたことで、より引きつけられる内容となっていました。平和学習はこれまでも学校でおこなってきましたが、当事者の方の話を体験記や紙芝居という形で聞かせていただいたことで、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さをこれまで以上に強く感じられたと思います。

ゆっくりと丁寧に話していただき、とても聞きやすかったです。暑い中でしたが生徒も最後まで一生懸命聞いていました。対面でのお話は臨場感があり、この形で開催をお願いして良かったと思っています。

◆原爆体験伝承者くにたち（東京都国立市養成）

【自治体】

今までいろいろな授業や講演で原爆についてお話を聞く機会がありました。しかし、私はそれを他人事のように感じていました。どれだけお話を聞いても「所詮昔のこと」「私には関係ない」とどこか突き放して考えていました。ですが、今回のお話を聞いたときは違いました。お話はとても身近に感じられまし

た。日常の中にいきなり原爆という存在が落ちてきたということが鮮明に感じられてとても恐ろしいなと感じました。しかも、世界にはまだ原爆がたくさん残っていてそれがまた日本に向けられたらどうしようと焦りを感じます。今回のお話を聞いて平和についてもっと真剣に考えるべきだな、と改めて感じました。

今回の講話では、原爆が落ちた日の様子を詳しく聞くことができました。家の下敷きになっている人を見殺しにして通り過ぎなければならなかったのは相当つらかっただろうなと思いました。原爆は人の心も体も壊す、あってはならないものだ、と改めて思いました。自分の曾祖父も戦争を体験しましたが、そのときのことは思い出したくないらしく話をしてくれることはなかったので、今回話を聞くことができよかったです。

私達は被爆者との世代が離れており、被爆した場所から離れて住んでいるため、原爆について詳しく学ぶ機会が全くありませんでした。今回の講話で、普段なら知ることのない貴重な話を聞かせてもらって、とても有意義な時間を過ごすことができました。原爆の恐ろしさを伝えるために、この話を、これからも何世代にわたって伝えていくべきだと思いました。自分が住んでいる場所で、2kmの範囲を表したのがわかりやすかったです。あの大きな範囲に影響を及ぼすことができる兵器を、実際に日本で使われたのだと考えると、かなり怖いと思いました。現在では、様々な国が原爆を所有していますが、実際に原爆が使われる機会が来ないことを願っています。

中学校の社会の授業で原爆という言葉を知ったり、SNSなどで見たりしたことがありますが、実際に被爆された、経験された話を聞き当時の恐ろしさが生々しく頭の中で想像できました。自分たちとは違う場所だから関係ないと思わず、同じ日本人として決して忘れてはならないなと思いました。